

# 南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報 (急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第 6 週 2026 年 2 月 2 日 ~ 2 月 8 日

## 今週のコメント

南丹保健所管内では、インフルエンザ/感染性胃腸炎/水痘が警報レベル継続中です。

### 2026 年第 6 週の報告です。

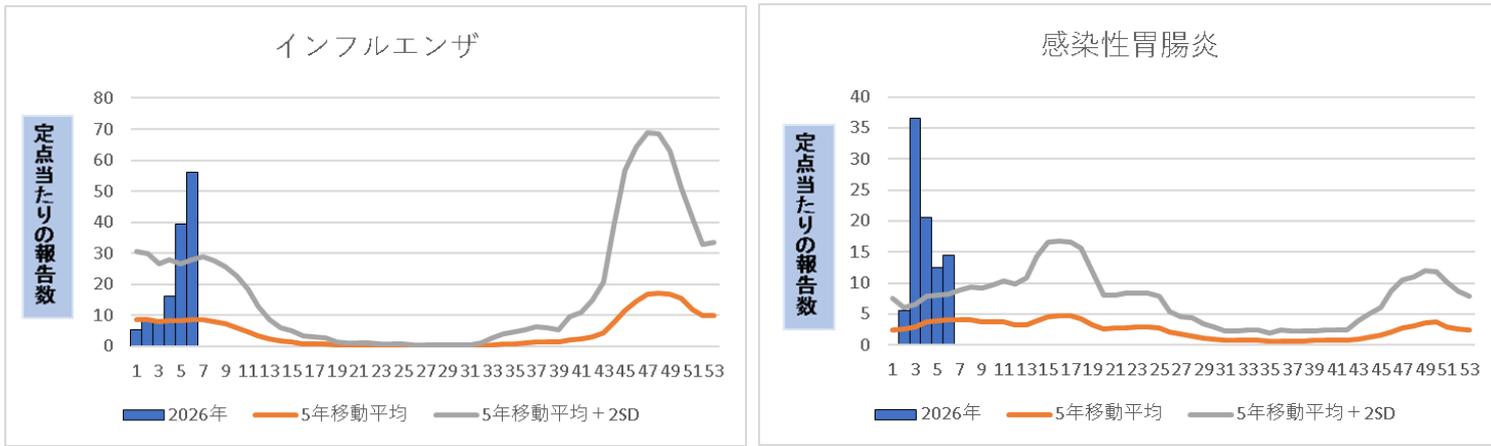
○インフルエンザの定点当たりの報告数は南丹 56.00(前週 39.25)、京都府 40.06(前週 26.76)となっています。

○感染性胃腸炎の定点あたり報告数は、南丹 14.50(前週 12.50)、京都府 9.21(前週 9.03)となっています。

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点あたり報告数は、南丹 3.50(前週 7.00)、京都府 6.00(前週 3.59)となっています。

○水痘の定点あたり報告数は、南丹 1.50(前週 1.00)、京都府 0.72(前週 0.33)となっています。

## 今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



※横軸は週数 縦軸は定点あたりの報告数を示しています

1 『5年移動平均』は、過去5年間の平均値の変化を表しています。

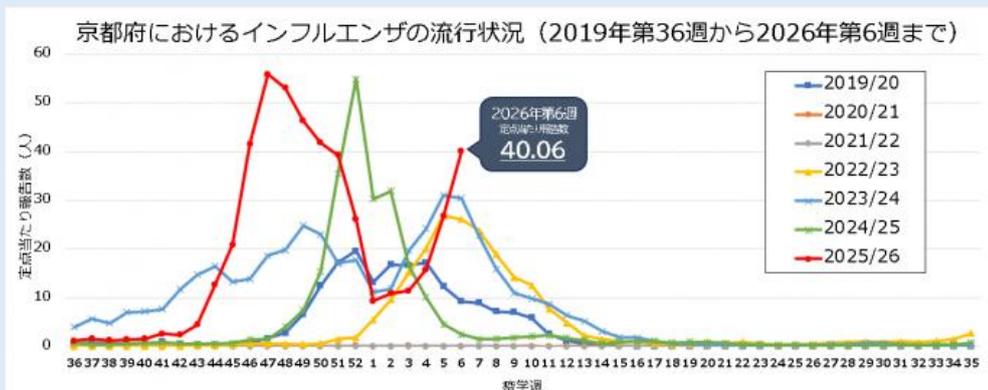
2 『5年移動平均+2SD』は、過去5年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

**京都府全体でインフルエンザが再び警報レベルになりました。**  
**基本的な感染症対策(手洗い、咳エチケット、適度な湿度を保つ、人混みを避ける等)をしっかりと行いましょう!**

今シーズン(2025/26)は、第36週(9月1日~7日)に流行入りし、第44週(10月27日~11月2日)に注意報基準を超え、第46週(11月10日~16日)に警報基準である定点あたり報告数30を超えました。その後、第47週(11月17日~23日)にピークを迎え、以降減少していましたが、2026年第2週(2026年1月5日~11日)から再び増加に転じ、第6週(2月2日~8日)に再び警報基準を超えました。

南丹保健所管内では、2026年第5週よりインフルエンザが再び警報レベルになっています。

京都府のインフルエンザ情報については、[こちら\(京都府感染症情報センター\)](#)をご確認ください。



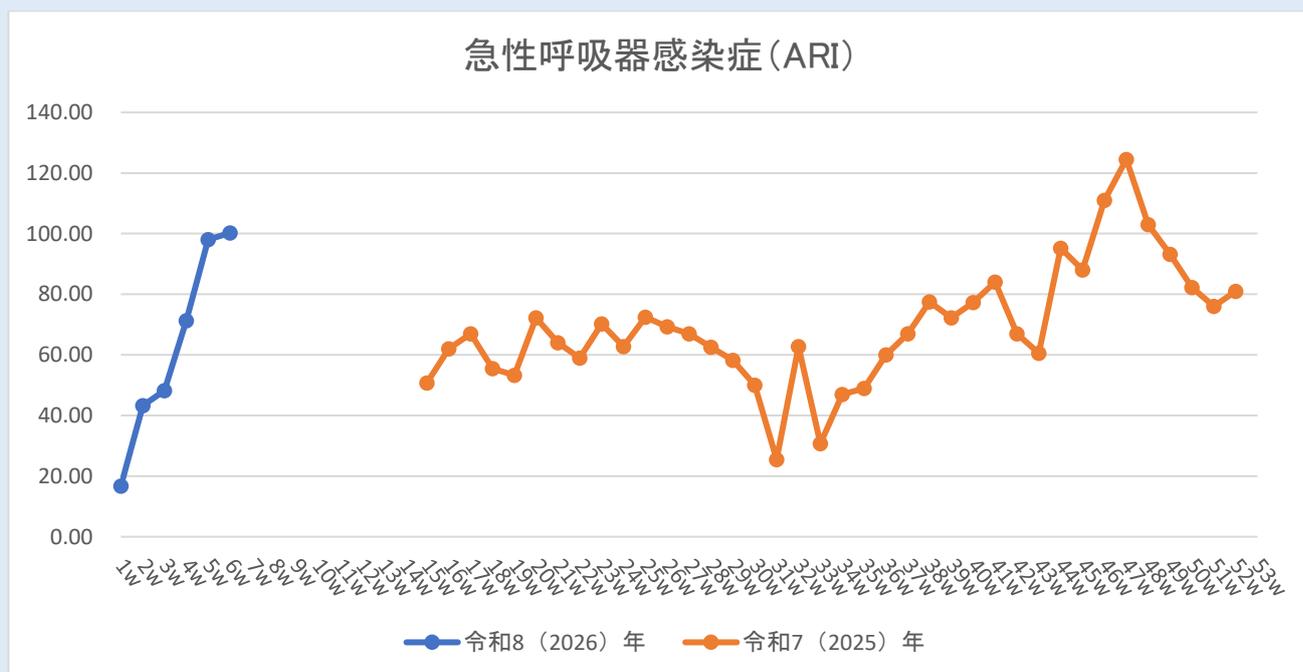
各定点把握疾患 発生状況(南丹管内)

	警報レベル		注意報	R8.6w		前週定点 (参考)
	開始	終息		定点当たり 報告数	前週比	
インフルエンザ*	30	10	10(流行1)	56.00	↗	39.25
新型コロナウイルス感染症				2.25	↘	3.00
RSウイルス感染症				0.00	↘	2.00
咽頭結膜熱	3	1		0.00	→	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		3.50	↘	7.00
感染性胃腸炎	20	12		14.50	↗	12.50
水痘	2	1	1	1.50	↗	1.00
手足口病	5	2		0.00	→	0.00
伝染性紅斑	2	1		0.00	→	0.00
突発性発しん				0.00	↘	0.50
ヘルパンギーナ	6	2		0.00	→	0.00
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症(ARI)について

急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第6週報告数は401件(定点当たりの報告数100.25)でした。[京都府の情報はこちら](#)



最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

・[京都府感染症情報センター](#)

更新時期: (原則) 毎週木曜日 14時 前週分の状況を更新

・[感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)